

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0971000252		
法人名	特定非営利活動法人 にちちそう		
事業所名	グループホーム にちちそう		
所在地	栃木県大田原市富士見1-1604-45		
自己評価作成日	平成 26年 11月14日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成26年12月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針にあるように「入居者の心身の状況、希望及びその置かれている環境に応じ、ご入居様の自立支援と充実した日常生活を送れるようサービスの提供」を行っている。特に本年度は「看取りに取り組む元年」とし看取りに関する内部・外部研修に力を入れている。最後まで住み慣れた場所で看取られることは、ご本人はもとよりご家族様にとっても悔いが残らないよう職員一丸となって努めているところです。  
また、地域の中にある施設として、地域とのふれあいをとおして、入居者・職員・地域の方々と共にしながら「ひらかれた施設」作りに努力している。なお、当施設は民家改修型の強みである「家」そのものの、家庭的雰囲気は、開所当時から培われ、多くの過去に入居された方が本人本位の生活が送られたものと確信している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、田畑に囲まれた静かな住宅地の一角に位置している。民家を改装した平屋建ての建物で、和風の植栽や生垣のある庭は四季を感じることができる。庭でのバーベキューや芋煮会などを行う際には、通りがかった近隣住民に声をかけるなど、地域の方が立ち寄りやすい雰囲気づくり、関係づくりに努めている。また、事業所のある地域全体の高齢化も進んでおり、徘徊者の保護や関連機関への連絡などの支援、認知症サポーター養成講座の開催や様々な助言、情報提供などを積極的に行い、地域の避難所や相談所としての役割も果たせるよう取り組んでいる。地域の代表者や行政との連携も密であり、地域密着型の施設として地域に根付いた事業所である。職員は、利用者の人としての尊厳を大切に、自立心や残存機能を活かしながら、利用者が充実した毎日を送れるよう心がけ支援している。家庭的な雰囲気そのままに、職員と利用者が笑顔で和気あいあいと過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の理念は共有し、少しずつではあるが実践に繋げている。	「尊厳・尊重」を柱とした事業所独自の理念を作りリビングに掲示している。また、法人目標である5S精神(セーフティ・シンセリティ・サービス・スピード・スマイル)や毎月の職員目標を掲げ、理念と共に職員間で共有し、日々の支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩時に挨拶・声掛けを積極的に取り組んでいる。また、自治会の行事に参加し、地域の中の施設であることの啓発に努めている。	自治会の草刈りやゴミ拾いなどに積極的に参加している。日頃から声を掛け合うなど、近隣との付き合いも盛んである。地域の中の施設として近隣の認知度も高く、徘徊者の保護や近隣住民の相談所としての役割も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や交流会をとおして、施設内で食事会を開催し支援して頂いているが、今後は施設から地域に認知症を正しく理解して頂くよう、認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会で、この間の利用状況や今後の計画を話し合っている。また、地域代表者や自治会長より地域の資源を聴取し、サービスに活かしている。	会議には、利用者家族・市職員・地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員のほか、前自治会長や元民生委員などの地域代表者が参加している。時節に合わせた議題を掲げ、活発な意見交換、情報交換がなされている。出された意見や助言は運営や利用者支援の向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護サービス連絡協議会に積極的に参加し、行政側の要望や施設側からの意見を検討して頂き密に接している。	毎月の利用状況報告や運営推進会議のほか、市の講座開催への協力など、市との協力関係の構築に積極的に取り組んでいる。また、市介護サービス連絡協議会に参加し、他事業所との交流・情報交換を行い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体を拘束しないケアを内部研修をとおして話し合いを行っている。	事例シートなどの教材を用いた勉強会や徘徊訓練模擬捜索などの内部研修のほか、職員が外部研修にも参加できる機会を設けている。玄関は日中の施錠はせず、徘徊にも声掛けの工夫や職員が付き添い見守ることで対応し、拘束や抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	共通理解を深め、不明な傷等があった場合には、職員間で原因を追究し、再発防止に努めている。		

グループホームにちにしそ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が市民後見人養成講座を受講している為 職員からの権利擁護に関する質問へは適切な返答が行われ、入所者のご家族からの問い合わせにも対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書により説明を行った後、必ず質問があるかどうかを尋ね、どんな簡単な疑問にも 返答し、今後問題を残さないよう十分な時間を取り契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置してあるが、苦情に関しては契約時に説明を行っている。また、請求書送付状時にその月の生活状況を各担当職員から情報を提供している。用料支払い時に、ご家族様から要望等を聴くことに努めている。	広報誌の発行や毎月の便りにより生活状況を報告している。利用料支払い時には事業所に足を運んでいただき、顔を合わせ話す機会を設けている。また、事業所独自のアンケートを行うなど、日頃から意見を表し易い環境づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、職員から出た意見・提案を代表者を交えた管理者会議で述べ、運営に関し、良好な運営環境作りを行っている。	管理者と職員は日頃から話しやすい雰囲気、関係が築かれている。提案や会議の議題に取り上げてほしい内容などの意見を出し合い、毎月の職員会議で話し合っている。また、「気づき表」を用い、運営や支援に関して気づいた点や提案を記入し、各内容についての対処・評価をして、職員間で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心が持てるよう、研修会の積極的な 参加を薦めやりがいのある職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数を考慮し、実践者研修、管理者研修を受講させている。また、資格取得をするための時間的後方支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内及び、同業者での研修や他施設への研修を行い、ケアの質向上に努めている。		

グループホームにちにしそ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込書受付時に家族からご本人の情報を聞き、入居決定前に再度ご本人に会い状態等を確認する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全職員がご家族の希望や不安等に対し話せる機会を設けて、介護計画に反映する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りを行い本人にとってより良い支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り自立した生活を送れるようサポートを行っている。また共に学び協力し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月生活状況を書面にて送り、面会時・来訪時等再度状況説明をするなど共に支えあう関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実家の確認や以前行っていた理美容店の必要がある時は積極的に同理美容店の利用していただいている。また、友人・知人の面会を歓迎してご本人のための支援を行っている。	馴染みの理美容店の利用を支援している。歌謡を楽しむ時間を設けたり、イナゴの佃煮など馴染みの食材を提供したりと、個々の生活習慣の継続にも努めている。友人や知人の来訪時には居室で談笑したりとゆっくと交流できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置・レクリエーションの好み・日常の役割・手伝い等を考慮し、共に支えあう良い関係を作ってもらうように努めている。		

グループホームにちにしそ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者の担当者を決め、担当者は特に気を配り入居者の意向を聞き取り、その意向を全職員が共有するようカンファレンスや職員会議で発言しその人にとっての最適なケアを行っている。	月に一度、皆が笑顔で会話し、希望や要望、意見を出しあえる「ニコニコ会」という時間を設けている。また、日頃からのコミュニケーションを大切に、その時々での傾聴や会話から思いや意向の把握に努め、職員間で情報共有し日々の支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からは日常生活の中から会話をとおして聞き取り、また、ご家族からも聞き取り、両者の意見を勘案してケアマネジメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を生かす役割や趣味などを生活の中に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとり担当者を決め月1回カンファレンス、モニタリングを行い、利用者の支援方法を話し合い実行できるよう介護計画を作成している。	毎月のカンファレンス、定期的なモニタリングを行い、ケアマネジャー兼看護師と担当職員が原案を作り、本人の意向、家族の意見などを取り入れながら、状況の変化に合わせ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、申し送りノートを活用し情報を共有し活用している。介護計画も状況に合わせて見直しができるよう配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個人の必要な物品など要求があった場合には預り金の中から買物代行を請け負っている。		

グループホームにちにしちそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方やボランティアの方々の来所や協力は利用者にとっては、楽しみの一つになっている。理美容においては、安価で理美容を行ってくださる理美容店がきてくださるので、いつも清潔に整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が協力医療機関であればよいのであるが、異なった場合、本人・ご家族と話し合って本人のためにどの医療機関が良いか十分な話し合いのうえ決定している。	今までのかかりつけ医の受診も支援しているが、遠方の場合は移動など通院による本人の身体的負担も大きく、多角的な面から検討し、事業所から徒歩圏内にある協力医の受診を勧めている。協力医は依頼により往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しているので、医療的なことは、必ず意見を聞きながらまた主医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者のみならず、ご家族と十分話し合っ、次への対処策をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「病状が変化した時のご家族様のご希望について」のアンケートをとり、重度化した場合・終末期のご家族の希望を常に施設として把握している。また、かかりつけ医との連携を深めチームでの終末期のケアに取り組むよう努めている。	状況変化時の対応の希望については、家族にアンケートをとっている。そのほか、折を見て家族の思いや希望の変化について伺い確認している。看取りに関する職員研修なども積極的におこなっている。当事業所では実際の看取りの経験はないため、今後の支援のあり方について検討中である。	職員の負担等も考慮しながら事業所として支援可能な範囲を明確にし、経過から看取り後の対応も含めた具体的な終末期ケアの内容をまとめ、医師や家族、職員間で連携し、安心してホームで最期を迎えられるよう、今後の体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初歩的な応急処置は各職員が理解しているが、急変・事故発生時には速やかに医師、看護師に連絡をとり対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所が確保できているが、年2回の避難訓練でマニュアルに従い、災害が起こったなら「どうする」の意識を常にもっている。隣人所には警報のサイレンがあった場合の援助をお願いしている。	日中・夜間想定訓練を行い、特に夜間想定では、応援職員の到着時間等も考慮するなど実践に即した訓練をしている。近隣住宅の庭を避難所として提供していただけるなど地域住民との協力体制が築かれている。備蓄や感染対策なども完備し、災害・緊急時に備えている。	

グループホームにちにしそ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心が一人ひとり違うため、一人ひとりの自尊心を把握した上で、人格を損ねないような言葉かけに注意をしている。プライバシーに配慮した言動に徹している。	相手の人間らしさを尊重し「見る」「語る」「触れる」「立つ」の4つを柱とするユマニチュードケアに取り組んでいる。利用者の個人情報や尊厳に関わる内容については、他の利用者からも個人が特定できないよう職員間の会話にも配慮している。おむつ処理などは他者の目に触れないような工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけることなく、入居者から意見を聞き取り、できることから実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決まっているが、食事の時間や、買い物の要望があった場合など随時柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日はどちらの洋服を着たいかなどを聞きいれてお好みに沿った物をえらんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューの好みや要望を聞き入れ、出来る限りそれに沿ったメニューを取り入れている。また、食前準備や食後の後片付けに参加していただいている。	食材の買出しには利用者とはかけ、希望に添えるよう季節の食材などを取り入れている。職員が調理し、残存機能や食欲、体調を考慮し食事量を調整している。配膳や食器拭きなどに参加していただいている。月に一度、昼食時にファストフードや焼きそば、出張ラーメンなどの希望を取り入れ、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に食べる量を聞きながら摂取していただいている。摂取量が少ない場合などは、補助栄養食品で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自力により口腔ケアを促し行っている。介助が必要な方には介助にて支援している。		

グループホームにちちちそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導、状態にあわせた個別支援を行っている。 排泄時間を記録・分析して各人のパターンの把握に努めている。	排泄時間を記録し個々の排泄パターンの把握に努めている。プライバシーに配慮しながらも、誘導や見守りを行い、排泄の自立を支援している。失敗時にも居室で声かけをし着替え介助をするなど工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排泄チェック表に基づき、便秘の管理体制をとっている。便秘の場合は、水分補給・体操・乳製品で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番は決まっているが、その日の体調により変更する。 入浴拒否の方などは、時間差を付けて入浴をさせていただいている。	基本は週2～3回、午後の時間帯で一对一の支援をしている。入浴の回数や時間、順序、温度なども希望に合わせている。一人ひとりのペースでゆったりと入れるよう支援している。柚子を頂いた時にはゆず湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の離床に努め、夜間の安眠を促すようにしている。使い慣れた寝具の使用。定期的にシーツ交換、布団干しをし、安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をもらい使用方法や禁忌等を把握し支援を行っている。特に急に薬が、増減した場合は申し送り時に徹底し、誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、台所仕事等できることの支援、また昔自宅で購読していた新聞、雑誌等をご本人の居室にある新聞受けに入れたりまた、居室に届けたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者から出かけたいた所を聞き、優先的に外出支援を行っている。また、行政が催うされる行事等にも参加している。	近隣の散歩やスーパーへの買い物など日常的に外出している。また、毎月のレクリエーション担当職員が、利用者の希望などを考慮し行事を企画している。庭でのバーベキューや芋煮会、近隣公園へのお花見散歩のほか、車椅子の入れる店舗やトイレの設置場所などの下見を行い、観光やなや県外の有名寿司店など、年に数回の遠方への外出も支援している。	



グループホームにちにしそ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の同行、外出時に「おこづかい」の中からお金を渡し、自分で支払ってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光はない。ホール、玄関等へ季節に合った花の飾りつけや、居室か見える場所には鉢植えの花を置いている。居室には、自分で作成したカレンダーを貼っている。また、各入居者の部屋には表札を掛け、個人の空間の認識をしている。	廊下や縁側が広く、縁側に設置された椅子に座り、軒下に吊るした干し柿や庭の植栽を楽しむ事ができる。多目的ホールは明るく開放的な空間でありながら、昔ながらの茶の間にいるような雰囲気がある。利用者の作品や行事予定、リハビリ体操の手順などが掲示してある。浴室やトイレなどの共有空間も適度な広さがあり、家庭的で使い勝手の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、戸外を眺め複数で会話ができる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真等を居室に飾り、使い慣れたものや好みのものを活かし、居心地のよい居室作りをおこなっている。	民家を改装しており、居室は和室や洋室、収納の数など、部屋ごとに全て作りや広さが違う。各部屋には花の名前が付けられているほか、入り口には利用者が自分で名前を書いた表札がかけてある。ベッドや布団、こたつや収納、仏壇など、馴染みのものを自由に持ち込み、居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	照明、掲示、段差の注意、手すり設置などを行っている。		